

胃粘膜下腫瘍(SMT)の診断に、最近、超音波内視鏡、免疫組織化学的方法が取り入れられ、新たな展開が生まれつつある。そこで本誌で14年ぶりに企画されたのが本特集号「胃粘膜下腫瘍の診断—現況と進歩—」である。隔靴搔痒の感があった胃SMTの診断法に、ようやく手が直接届くようになったことを、読者の方々はわかっていただけよう。

主題論文はそれぞれ現況と進歩をよく示している。浜田らはSMTの長径、厚さと粘膜面での大きさ、高さとの比較でX線診断の描出能とその限界を科学的に掘り下げ、川口らはレーザーやエタノールで人工的に潰瘍を作製し、そこからの生検で腫瘍成分の検出率を論じている。次に相部らや吉田らの示した超音波診断は、胃壁の5層構造を基に、エコー像の分析で、腫瘍の鑑別診断が可能であることを、美しい画像で説得力をもって示している。それを基に超音波内視鏡像はSMTの診断に今や必要不可欠な検査法であると論陣をはっている。

また、廣田らはポリペプタイド、蛋白または細胞分化の指標となる細胞骨格、特異的抗原の微量定性的な手法を用いて、SMTの細胞由来が明確になりつつある現状、特に筋原性と神経原性腫瘍との鑑別が可能となったことを述べ、この点でも、将来の発展が大いに期待される。

一方、主題症例をみるとそれぞれ、経過例、X線CT像や超音波像を駆使した例、免疫組織化学的手法が有効であった例、SMT様所見を呈した早期胃癌、顆粒細胞腫など興味ある例ばかりである。

ところで新たな検査法の登場は、新しい情報と共に多少の混乱を生み、それが整理され、また新たな課題が派生し、学問上の進歩へと連動するものである。今後、胃SMTの診断がどのように発展してゆくか、楽しみである。「胃と腸」は美しい画像と肉眼所見や組織学的所見との比較を基にし、実証主義に立脚しているところに他誌にみられない特色がある。本特集号も、その視点からじっくり見ていただきたい。

胃と腸

10月号(第24巻・第10号)予告

発売予定 10月16日
定 価 1,854円

主題／分類困難な腸の炎症性疾患

主 題	非腫瘍性大腸疾患のX線所見……………	順天堂大・消内	松川 正明・他
	病理からみた分類困難な非特異性炎症性腸疾患……………	新潟大・1病理	渡辺 英伸・他
主 題 症 例	非特異性炎症性腸疾患—その再分類と考え方……………	福岡大筑紫病院・内	八尾 恒良・他
	反復する下血を主訴とした分類困難な小腸大腸炎の1例……………	東京医大・4内	堀向 文憲・他
	回盲弁より40cm口側に発生した単純性潰瘍の1例……………	大阪医大・2内	芦田 潔・他
	急性GVHD(Graft-Versus-Host Disease)の腸病変の1例……………	東女医大・消C	屋代 庫人・他
	X線像で竹の節状変形(bamboo-joint sign)を呈した虚血性大腸炎の1例……………	鹿児島大・2内	西俣 嘉人・他
主 題 研 究	経過からみた“非特異性多発性小腸潰瘍症”……………	九大・2内	飯田 三雄・他
	mucosal prolapse syndromeの1例……………	公立能登総合病院・外	中泉 治雄・他
今月の症例	消化器疾患とUS・CT V. 大腸 >その3<……………	国立がんC・放診	牛尾 恭輔・他
入 門 講 座			

胃と腸 (第24巻 第9号)

編 集 早期胃癌研究会

発 行 株式会社 医学書院

代 表 者 金原 俊

〒113-91 東京都文京区本郷5-24-3

☎ 社内案内 (03) 817-5600

本誌編集室直通 (03) 817-5714

販売部直通 (03) 817-5659

1989年9月25日発行(毎月25日発行)

1部定価1,854円(本体1,800円)(配送料80円)

年ぎめ予約購読料21,136円(本体20,520円)

(送料弊社負担)

FAX (03) 815-7802

振替口座 東京7-96693 番

印 刷 所 永和印刷(株) ☎ (03) 813-5001

広告取扱 医界弘報社 ☎ (03) 814-5771

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo. © 1989. Printed in Japan.

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権の侵害となることがありますので御注意下さい。

(担当)長谷川・窪田・萩原・大竹